



すみだと大相撲

■ 回向院の大相撲

日本では1500年以上の長い歴史を誇る相撲が、現在のように「大相撲」と呼ばれるようになるのは、江戸時代中期のことです。徳川幕府による平和が続いたことで毎年のように催され、人気が高まったことが大相撲成立の背景にあります。大相撲の名に相応しく、花形力士たちが毎場所熱戦を繰り広げたのです。

江戸時代前期には、深川・江東地域でも相撲が盛んでしたが、天明年間(1781~89)頃から、両国・回向院が中心地となりました。両国橋広小路の芝居小屋・茶屋や回向院での開帳などで、両国は浅草と並んで江戸随一の盛り場として大いに賑わっていました。天保4年(1833)冬以降、江戸の大相撲は毎場所回向院で行われています。

江戸の町名主・著述家の斎藤月岑は、天保9年(1838)刊の『東都歳事記』で、江戸の大相撲



(図1) 歌川国郷 画「両国大相撲繁栄之図」
嘉永6年(1853) 所蔵: 相撲博物館

第一の場所として回向院を挙げ、歌川国郷も大相撲で賑わう両国の様子を見事に描いています(図1)。夕涼みや川開き、火花などとともに、大相撲は両国の風物詩であり、江戸文化を象徴する行事のひとつとなりました。

■ 国技館の誕生

明治維新後も回向院での大相撲が続き、明治42年(1909)6

月、境内に国技館が誕生します。

国技館は当初、常設館という名称でしたが、小説家・新聞記者の江見水蔭による開館披露文中の「角力(相撲)は日本の国技」という文言から「国技館」と命名されました。晴天興行だった大相撲が雨天でも開催可能になるなど、国技館の誕生は大変画期的な出来事で、東京の新名所として(図2)のよう



(図2) 開館当時の国技館 絵はがき
明治42年(1909) 所蔵: 相撲博物館

■ 相撲の街

両国には多くの相撲部屋が集い、今も江戸時代の錦絵と同様に、鬘や着物姿の力士たちが闊歩しています。そして本場所開催時には、国技館に幟がはためき、太鼓の音が鳴り響き、江戸文化を体感することができます。また、相撲の神様を祀る野見宿禰神社(図3)が北斎通りに位置するなど、大相撲ゆかりの地がたくさんあります。みなさんも両国を散策して相撲文化をお楽しみください。

(公益財団法人日本相撲協会)
相撲博物館学芸員 土屋喜敬



(図3) 野見宿禰神社

● 包括連携協定締結

令和4年8月に公相区るじ層互こ連ま
益財法人日本墨田よ通一相結
協会大相撲をの相与包括
は、域墨田区及び与に締結
地、墨田区活性化を目的を
の、活性的に協力を協
展を協力を協力を協力を協
した。

人と隅田川（水辺）をつなぐ 「東京水辺ライン」



水辺ライン水上バスと隅田川



両国リバーセンター

■東京水辺ラインのご紹介

「東京水辺ライン」は、両国リバーセンターを起点として、3隻の水上バスを運航している定期旅客船事業者です。水上バスは東京都の所有で、政策連携団体である（公財）東京都公園協会が管理運営を担っています。令和2年7月には、就航を開始して30周年を迎えました。

通常は、隅田川を中心に両国を出発して、浅草二天門発着場を経由し、お台場海浜公園や葛西臨海公園まで就航しています。コロナ禍前の平成29年度には、年間20万人近くのお客様にご乗船いただいております。

■3隻の水上バスの役割

現在、140名定員の「さくら」と「あじさい」、200名定員の「こすもす」の全3隻体制で運航しています。すべて白色が基調の船で、特徴として、全高が低く制限されている代わりに、屋上デッキに上ることが可能で、オープンエアの空間にて、開放感を満喫できます。これらの船は、普段は旅客船として皆様にお楽しみいただいておりますが、非常時には、防災船としての役割が与えられています。

■大規模災害が発災した際には、

東京都の定める「地域防災計画」に基づき、防災船として救援物資の移送など、水上輸送の要としての活躍が期待されています。定期便としての運航は、非常時に備えた船員の習熟訓練を兼ねており、時には、定期航路とは異なる航路の運航も実施しています。また、各関係機関と連携し、災害時対応訓練やテロ対策訓練などに年間10回程度参加しています。墨田区内では、東白鬚公園と連携した防災訓練を毎年実施しています。

■防災船着場の整備

水上バスは、路線バスが停留所に止まるように、両国を出発すると、いくつもの船着場に止まりながら運航します。そのほとんどが「防災船着場」として整備されたものになります。防災船着場は、阪神・淡路大震災の際に、寸断された陸上交通網の補完などの観点から、災害時における河川舟運の有効性が注目され、整備されたものです。

隅田川のような大きな河川だけでなく、中小の河川にも整備が進められ、国、都、区などの行政機関、民間など各管理者のもと、都

内には70を超える防災船着場が整備されています。一部の防災船着場については、屋形船を中心に観光振興等のため、通常時でも利用が開放されています。水上バスが止まる両国船着場、吾妻橋船着場（墨田区役所前）、浅草東参道二天門船着場（浅草二天門）なども防災船着場として整備されたものです。

■おすすめコースと今後の展望

東京水辺ラインは、普段は月・火定休の週5日間運航、繁忙期は毎日運航しています。夜景観賞に最適な毎週土曜日開催の「ナイトクルーズ」、隅田川のはるか上流

まで進み、防災船としての能力を実感していただける「いちにちゆらり旅」などはおすすめコースです。こちらは月1回程度の開催となります。

コロナ禍を乗り越え、インバウンドを中心に一気に乗船者数が戻ってきました。令和4年度の乗船者数は12万人、今年度はそれをはるかに上回るペースで増加しています。機会がありましたら、皆様にも東京水辺ラインに気軽にご乗船いただき、水辺に親しみ、舟運を満喫していただければ幸いです。（東京都公園協会水辺事業部 水辺ライン課長 八馬 稔）



【お問合せ】東京水辺ライン
 TEL : 03-5608-8869
 受付時間 : 9:00~17:00 (月曜日除く)